

光洋瓦展 姫路城のいぶし瓦 Koyo Kawara Exhibition

伝統の技と可能性

7/16(土)～8/14(日)

鑑賞料300円



姫路城鬼瓦など
多数展示致します。

姫路城といぶし瓦 Himeji Castle & Smoked Roofing Tile

平成5年にユネスコ世界遺産に登録された「姫路城」。白鷺が羽をひろげたように見える美しいその姿から「白鷺城」とも呼ばれています。その優美な造形、光を受けて輝くお城の重要な役割を担っているのが、入り組んだ幾重もの屋根に鯨瓦や鬼瓦などのいぶし瓦——「神崎瓦」の存在です。

光洋製瓦のある姫路市船津町は、良質の粘土がとれることから古くから瓦造りが行われていました。特にその名が知られるようになったのは、文化二年（1802年）姫路藩御用瓦師であった小林又右衛門が良質の原料を探し求め船津町に移住し、窯を開いたのがはじまりといわれます。

いぶし瓦の伝承 光洋製瓦株式会社

『いぶし瓦』は瓦を焼き締める最後の工程で瓦をいぶし、その表面に炭素の皮膜をつくることで、雨や雪、霜などによる瓦の劣化や変色を防ぎ、木造建築に100年、200年の生命を与え続けてきた日本の伝統的な瓦のことです。

私たちは瓦職人集団として、この『いぶし瓦』の伝統工法を継承し、『良い粘土を使い、高温でじっくりと焼き締める』という瓦造りの原点と、『瓦は建物の安心と安全を守り、建物に生命を吹き込むものだ』という瓦の本質を忘れることなく、手間暇かけ、質の高い製品を造り続けています。

姫路城の「平成の大修理」では、大天守の瓦を制作し、大天守のシャチ瓦、鬼瓦、をはじめ数々の光洋の瓦が使用されました。

また、光洋の屋根葺き職人たちも、約2年間の間「平成の大修理工事」に携わりました。「一生職人」の心を貫き、100年の歳月を経てもなお美しい輝きを放つ“一生瓦”を造る—それが光洋製瓦です。